

日本ホワイトヘッド・プロセス学会 第36回全国大会

日 程 : 2014年10月11日(土)~12日(日)

会 場 : 桃山学院大学 和泉キャンパス

10月11日(土)

<理事会> 会場: 聖アンデレ館 11階ラウンジ

時間: 12時~13時30分

<公開シンポジウム>

「世界への愛」とプロセス哲学
——21世紀を生きるための洞察——

主催 : 日本ホワイトヘッド・プロセス学会

後援 : 桃山学院大学キリスト教学会

会場: 2号館 2-301教室 (ハイビジョンシアター)

時間: 14時~17時45分

[公開シンポジウム趣旨]

今日、「個人化社会」と「協働化社会」と言った、関連もあるけれども、異なった意味付けがなされる事態が同時進行、ないし併存しているように思われます。前者は、われわれが「生きること」において「競争」や「選択に基づく自己決定」、「自己責任」が強調され、社会的な状況に起源をもつ諸問題も「個人の責任」に還元されることを「共通感覚」にしていこうとする傾向が社会的に強まっていることを意味しています。後者は、1995年1月17日の阪神淡路大震災、また2011年3月11日に起きた東日本大震災において実践された「ボランティア活動」に典型的にみられる、人々の間の、また個人と組織との、さらに種々の組織間の「連携」や「連帯」という広い意味での「協働」を基調とした「生きること」の「共通感覚」を現実化していこうとする傾向が、人々の間に浸透している事態をあらわす言葉です。

「個人化社会」は、「合理化」や「効率化」を基調とした「利益性」を重視する「経済社会」には、極めて好都合であるばかりではなく、到達すべき地点であるかもしれません。それは、われわれが「生きる世界」から「経済社会」を抽象し、そしてそれをわれわれが「生きる社会」へと一般化することのように思われます。それに対し、「協働化社会」は、「生きること」の原初的な場としての「生きる世界」へと回帰し、人々の中に「生きること」に関する「現実感の覚醒」を引き出し、それを深化する社会であるように思われます。これらの二種類の「社会」が併存していることを、われわれはどのように理解するべきで

しょうか。「棲み分け」の意味で併存しているのでしょうか。そもそも「併存」しているのでしょうか。「個人化社会」が一方的に強化され、「協働化社会」が衰弱していく可能性とその逆の可能性も考えてみる必要があります。前者の傾向が強まるならば、「生きる世界」に根ざすアクチュアリティ（現実性ないし臨場性）が失われるのではないのでしょうか。また逆に後者が前者を凌駕するならば、「生きること」において無視できない要因である「経済」に関するリアリティ（これをどのように表現してよいか今は迷っていますが、とりあえず「真実性」）が薄くなるようにも思われます。したがって、これら二者間の関係について、以下のように問いを深めていくことが要請されます。「個人化社会」への反動としての「協働化社会」なののでしょうか。逆に、「協働化社会」への反動としての「個人化社会」なののでしょうか。また、それらの「社会」は相互的な補完関係にあるのでしょうか。さらには、それらは重層的な関係にあるのでしょうか。そもそも重層的な関係が成り立つのでしょうか。

これらの問いへの応答は、「生きづらい社会」や「絆」が喧伝されている現状において、極めて重要な課題であると感じております。かかる応答への道は、いくつかあると思いますが、以下の点に留意する必要があります。その一つは、「個人化社会」、「協働化社会」、および「生きづらい社会」や「絆」が語れる場合、「世界」や「社会」を「分節化」すること、つまり「狭く」捉えられている場合が多い、という点です。また、その「分節化された」、あるいは「狭い」「世界」や「社会」への「愛」（この言葉の一般的な意味を「配慮」、「気遣い」と表現しておきたいと思えます）が前提となっていることを忘れるわけにはいきません。ここで、「世界」をわれわれが生きる「共通の社会」で意味しようとしております。「個人化社会」は「協働化社会」よりも分節化されており、より狭い社会です。また、「協働化社会」も「分節化」の弊害が皆無ではありません。さらに、これらの二つの社会もそれぞれ「狭い世界」です。「狭い社会」や「狭い世界」は、必然的に「狭い愛」を伴います。「21世紀を生きるため」に、われわれは、まず広がりや深みのある「世界への愛」の洞察を必要としているのではないのでしょうか。アルフレッド・ノース・ホワイトヘッドのプロセス哲学は、かかる洞察に親和的であると思われます。このような21世紀の課題へのアプローチから、ホワイトヘッド哲学の射程を展望してみたいと思えます。

【基調講演】 14時～15時（質疑応答）

講演者 延原時行：日本ホワイトヘッド・プロセス学会副会長、敬和大学名誉教授

演題 『「世界への愛」とプロセス哲学——ホワイトヘッドの冒険ないし復活形而上学をめぐる——』

司会者 滝澤武人：桃山学院大学キリスト教学会元会長、桃山学院大学名誉教授

（15時～15時15分 休憩）

[提題および討論] 15時15分～17時45分

司会者 島田 恒 : 日本ホワイトヘッド・プロセス学会会員、島田事務所（企業及び非営利組織の指導・研修事業）代表、クラレ（株）事業企画部長、龍谷大学教授、京都文教大学教授、大阪商業大学教授、及び関西学院大学大学院・龍谷大学大学院、神戸女学院大学各非常勤講師を歴任、桃山学院大学大学院経営学研究科課程博士第一号）

趣旨説明（司会者） 15時15分～15時20分

提題者①（基調講演）

15時20分～15時50分

提題者② 河辺 純 : 日本ホワイトヘッド・プロセス学会会員、大阪商業大学准教授、桃山学院大学大学院経営学研究科課程博士第五号）
「経験としての協働」

15時50分～16時20分

提題者③ 谷口照三 : 日本ホワイトヘッド・プロセス学会理事、桃山学院大学教授、桃山学院大学キリスト教学会会長
「大学教育の課題とその哲学的基盤性としての『世界への愛』」

（16時20分～16時30分 休憩）

討論 16時30分～17時45分

<懇親会> 18時～20時（聖ヨハネ館ヨハネホール）

10月12日（日） 研究発表（発表35分、質疑応答15分）

ヨハネ館三階教室、J-301, J-302, J-303, J-304

発表グループ 1（J-301 教室）

11：00～11：50 花岡永子 「存在と生成」の問題

—西谷宗教哲学の「己事究明」とA.N.ホワイトヘッドの「出来事」を介して—

司会・コメンテーター：田中裕

15：00～15：50 吉田幸司 「感受」の形而上学

—ブラドリー・ジェイムズ・ホワイトヘッドの比較研究—

司会・コメンテーター：乗立雄輝

発表グループ 2（J-302 教室）

10：00～10：50 濱崎要子 ホワイトヘッドの冒険と芭蕉の旅

—新たな観念と美を求めて—

司会・コメンテーター：荒川善廣

11：00～11：50 猪原政治 ホワイトヘッドと上野陽一の考える自己実現

—「合生過程」と「能率」の統合に向けて—

司会・コメンテーター：荒川善廣

15：00～15：50 佐藤陽祐 象徴的関連付けとひずみの場所

—知覚成立の場としての「ひずみ」(strain)—

司会・コメンテーター：齋藤暢人

発表グループ 3（J-303 教室）

10：00～10：50 山浦雄三 今西錦司の「棲み分け理論」とホワイトヘッドの
有機体論～日本的哲学の可能性

司会・コメンテーター：本郷均

11：00～11：50 飯盛元章 （仮題）ホワイトヘッドの形而上学と理性

司会・コメンテーター：本郷均

15：00～15：50 守永直幹 （仮題）ホワイトヘッドとイギリス哲学

司会・コメンテーター：田中裕

発表グループ 4 (J-304 教室)

10:00~10:50 岡浩史 進化論とホワイトヘッドの有機体概念
司会・コメンテーター：村田康常

11:00~11:50 清水友輔 ホワイトヘッド哲学における境界概念について
司会・コメンテーター：村田康常

15:00~15:50 壽田鳳輔 ロジャー・ペンローズの The human mind (マインド)
とホワイトヘッドの Panpsychism or Pantheism
司会・コメンテーター：清水友輔

研究発表タイムスケジュール

時間/教室	J-301	J-302	J-303	J-304
10:00 ~10:50	司会・コメンテーター	濱崎 要子 司会・コメンテーター 荒川善廣	山浦雄三 司会・コメンテーター 本郷均	岡浩史 司会・コメンテーター 村田康常
11:00 ~11:50	花岡永子 司会・コメンテーター 田中裕	猪原政治 司会・コメンテーター 荒川善廣	飯盛元章 司会・コメンテーター 本郷均	清水友輔 司会・コメンテーター 村田康常
昼休憩				
13:00 ~14:50	総 会			
15:00 ~15:50	吉田幸司 司会・コメンテーター 乗立雄輝	佐藤陽祐 司会・コメンテーター 斉藤暢人	守永直幹 司会・コメンテーター 田中裕	壽田鳳輔 司会・コメンテーター 清水友輔